



第20回全道造 形教育研究大会



An aerial photograph of Asahikawa, Japan, showing a wide river (Asahikawa River) flowing through the city. A prominent bridge crosses the river. The city is densely packed with buildings, mostly with blue and red roofs. The surrounding area includes green fields and some industrial or commercial zones.

あさひかわ

主催 ■ 北海道造形教育連盟・旭川市教育委員会・旭川市教育研究会

後援 ■ 北海道教育委員会

期日 ■ 昭和45年7月30日(木)・31日(金)

会場 ■ 旭川市立北星中学校 (旭川市住吉町4条)



旭川市が開基80周年を迎えます。誠におめでたい年です。連盟が母体となって第20回大会を開催させていただきますことは、ご参会の皆様とともにご同慶に堪えません。

この大会をお引受け下さいました旭川市美術研究会、ならびに市教育委員会、上川教育局、道教育委員会、協賛団体のみなさまに会員一同に代りまして厚くお礼申し上げます。

特に会場校をお引受けの北星中学校長高野克郎先生初め事務局担当の皆様には、企画、実践、諸経費等運営全般にわたり、どんなにかご心労のことであり、授業者、研究者、司会者、記録者等の役がらの諸先生方にもお礼の申しあげようがございません。

この大会は昭和26年第1回を札幌市に開催し、昭和28年本市に第3回大会を開催いたしましたのでございます。したがって全道大会が廻ってまいりまして第2回ということになります。

昭和26年に北海道図画工作連盟として同志の団体を結成し、北海道の図画工作教育（美術教育）を振興させようという発想は、当時世想は敗戦という現実のため、物資の欠乏は極限に達し、すさんだそして枯渇した精神状態の露呈でございました。これを私ども有志は図画工作教育を通して、少しでも情操の純化育成に役立たせよう、心のかてを大人も子どもたちも、もちたいものだ、もたせたいものだを希ったのであります。

創立の発想は以上のとおりでございます。

私ごとで恐縮でございますが、私は昭和7年から昭和9年まで北見国興部に勤務、以後札幌市に転勤、北光小学校在職中、終戦、昭和23年に学校単独に全道図画工作教育研究大会を開催いたしました。全職員、全員の図画と工作の公開学習でございました。その年の秋伊藤恵君（現、札幌市立羊丘小 教頭）と京都の第2回全国図画工作教育大会に研究発表をもって参加いたしました。発表そのものの内容は、極めて貧困なものではございましたが、この大会が北海道大会開催のために、研究の方向づけ、あるいは運営面に強く私を感動させたのであります。帰札幌後、私ども若い二人は心ある先輩各位に報告し、かつ連盟結成の日も早からんことを強く訴えたのでございます。

さいわい、よき理解者、協賛のかたがたのご理解によりまして年ごとに結集は強固になり、研究の内容は充実し、新しい事業内容も計画されるようになりました。一口に20年と申しまして、その長い年月の間に、この団体を支える大黒柱、あるいは支柱、釘、マサ、ガラスの役目まで人間の智恵のよせあつめでありましたから紆宇曲折はまぬがれませんでした。当地の朝倉先生、泉先生、高野先生、梅沢先生等は連盟創設期からの委員として今日まで蔭日向なく指導されて参りました。その後第9回全国造形教育札幌大会や造形センター全国大会や、創造美術教育大会等もやり終えて参りました。年に一度の大会は、内容的には実践結果の報告であり検証でもあります。また、理論研究、主義主張の意見交換の機会でもございます。一面全道の幼稚園から高等学校までの系列を把握し、指導者その他を知る機会ともなります。近年連盟本部が「指導の構築」を主題に室蘭・函館・苫小牧・札幌と一つの課題解決に取り組んで参りました。この間、語句の解釈をめぐる幾多の紛糾論議がございましたが、第19回札幌大会をもって集約も終えることができました。この研究の経過の中で系統表、能力表、指導の構築第三集を出版いたし、全国大会でも高い評価をいただいております。これには本部長ならびに地方地区委員のかたがたの涙ぐましい努力の結集があったわけでございます。

科学の驚異的発掘は、アポロ11号、12号を月面に着陸させました。また、我が国が、オリンピック、万博等いろいろな面で国際社会の檜舞台におどり出る時代になりました。

教育そのものも、美術教育そのものも、単なる抽象論では納得できなくなってきているのではないのでしょうか。教育学一般、さらに美学、心理学、生理学等の背景に支えられながら、私どもの仮設が授業実践によって、どのような作品が生みだされたかの実証、結果の反省、これらの意欲のないとみこそ問題解決の道しるべではないかと思うのです。

学習指導要領の改訂期にあたって連盟の研究内容が寄与していると思われる点、今後ともご研究を希望してやみません。



● ご あ い さ つ

第20回北海道造形教育研究大会を旭川の地で開催することになり心から嬉しく存じます。

造形教育がねらっているものはいろいろありましようが1つには造形を通しての教育、つまり造形を通じて子どもの創造的な力を伸ばしていこうとするものであり、2つには絵をかくことや物をつくることを通して造形的基礎能力を養い生活の美化と能率化をはかろうとするものであると思います。

「ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか」を主題にとりあげ、幼稚園、小学校、中学校、さらには高等学校が一体となって造形教育を考えていこうとしていることは本研究大会の大きな特色であろうと思います。

造形教育が子どもの人間形成に大事な役割を果していることは到る所で耳にします。幼稚園、小学校、中学校、高等学校の教育要領

旭川市教育委員会教育長

高柳 寿賀 男

および学習指導要領の造形関係の目標にも共通して次のような点が述べられております。

1. 絵をかくいたりものを作ったりして表現の喜びを味わう。
2. 創造的表現能力を養う。
3. 美しいものを愛好する心情や態度を養う。
4. 美的能力、造形能力を生活に生かすようにする。

同じような環境にあっても精神的に豊かな生活をしている人とそうでない人がありますが、それは以上のような能力、態度をもって生活しているかどうかによるとも言えるであります。

全道各地から多数の方々のご参加をいただき、また、関係の方々のご協力、ご援助をいただき心からお礼申し上げます。ご参会の先生方が有意義に研修、討議され明日の教育に直接プラスになるものを得られるようご期待申し上げごあいさついたします。

● ご 挨 拶

このたび全道の幼、小、中、高の先生方による第20回造形教育研究大会が本市において開催されるに至った事は誠に御同慶にたえません。

最近の社会情勢はあらゆる面で複雑多岐になって参っておりますが、今日ほど教育の困難性と重要性を痛感させられる時はありません。今や世界は競って技術革新の時代に突入しております。アポロ13号の失敗はシステム工学への警鐘だという人もおります。人間がもっともっと人間らしく生きるにはどうしたらよいか、こんな考えの上になつて芸術教育の意義を考えてみたいと思います。

人は早くから模倣や純粹感情表現とともに機能的造形を一体とし

旭川市教育研究会運営委員長

戸原 武 男

て生活経験をつんで参っております。今回研究大会が、生きることのよるこびにつらなる真の意味の感情の教育との関連においてよく深くほりさげられる事を期待してやみやせん。

人間の創造活動は無限にくりひろげられると思います。また、ひろげられねばならないと思います。創造性を培う教育はあながち造形教育ばかりではありません。しかし、もっとも積極的に創造活動をなすものは造形教育だと思います。

全道からお集まり下さった皆様には、本市における教育研究会、図工・美術研究部の実践の実態を御覧下され種々御批判、御指導を賜りますれば誠に幸いと存じます。

● ご あ い さ つ

造形連盟が20周年を迎えた記念すべき年に旭川市に研究大会を開催されますことは、私達旭川のサークル一同、心から光栄に存じます。

本大会を盛大にするために遠隔の地から御参集下さいました先生方に「旭川大会はよかったなあ」と満足して頂けるよう一昨年来、幼稚園、小学校、中学校、高等学校のサークルが一体となって研究を進めてきました。わたしたちのこれまでの研究の積み上げは、

大会運営委員長

高野 克 郎

「ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか」を主題に、旭川の地域社会に基盤をおいた実践活動であり、視覚性を重視、児童・生徒との対話のなかから美術教育を見つめ、未知なる新しい創造への意欲を盛りあげる研究大会でありたいと念願しています。

全道から参加されました会員各位の建設的な暖かい御指導と、御協力を切にお願い致します。

● 旭川大会開催について

大会実行委員長

吉田 一雄

このたびの第20回旭川大会の準備については、旭川市教育委員会
図工、美術部員一同が教育という大きな展望にたって、美術教育こ
そは最も人間の心の中に暖かい血液をたぎらせながら生きる力を育
てるものであることを私たちのことばとして、この研究大会が有効
適切に運営され、所期の成果をあげるために、昼夜を分かたぬ努力
を傾け、誠心誠意この準備の仕事に邁進して参りました。考えて見
れば、この研究大会が美術教育の前進にとって十分な貢献をもたら
すか否かは、出席者各位の隔意なき善意の結果によるものであるこ
とは申すまでもありません。何卒皆様のご協力によって研究成果が
あがりませう願ってやみません。

今回、旭川大会の研究主題は「ゆたかに生きる子どもの造形能力
をどう育てるか」であります。この主題の根底に流れているものは、
現代の社会の中で、子どもたちが豊かに生きのびるためには、自分
自身の考えや感情を見失うことのない、主体的活動のできる人間、
いいかえれば、限りなく発展していく科学をうけて、複雑な環境と
条件のなかで豊かな想像力をもちうる人間でなければならない。そ

うした人間を育成するには、実践を通して現時点での美術教育を深
く見つめ、美術を通しての人間の豊かさや、生きるすばらしさを、
「如何なる」手段によって「何を」結果として求めるか。すなわち
現時代に適合する新しい人間づくりのための美術教育の責任を明か
にすることにあります。

教育の実地の経験からご承知のように、実践の立場での最大の目
的は、創造の主体である子どもたちの芸術的な資質、能力の可能性
を発掘し育てていくことにあります。何よりもまず美術教育の陣営
にあつて、人間の生活を内面的にも社会文化的にも高めていくこと
のできる主体的な創造性を育て、美しいもの、真実なものを深く感
じとることのできる目や心を育てるために、それへの具体的方法を
片隅から着実に実践していかなければなりません。わたしたちも幼稚
園から高校までの美術教育の分野の中に横たわる課題はきわめて多
様であります。したがって旭川大会のこの2日間、皆様の建設的な
ご協力と、ご活躍によって本研究大会が所期の成果をもたらすよう
心からお願い申し上げます。





美術教育の世界で、系統性ということがやかましくいわれるようになったのは、10年位前からでしょうか。その間、各方面で多くの研究がなされております。全道造形大会も、数年来より指導の構築がさげばれ、昨年の第19回札幌大会にて、一応の成果を見ております。しかし、全道的には一部の研究や深まりはあっても、数々の疑問や問題点も残しております。現段階では、これらの問題の解決として研究の積み上げや検証の必要性にせまられていると考えています。

第20回旭川大会は、指導の構築をどう受けとめ、それをどう展開させるかという、今後の研究方向を見つける点で重要な大会ではないでしょうか。

本大会の旭川提言の特色は、公開授業と提言内容を密着させたことです。それは、図工・美術教育の全体を見なおし、これまでの理論的な研究をより具体的な研究として、児童、生徒の日々の授業の中に見い出そうとしたのです。私たちは、授業の中で「子どもが豊かに生きる」ことを願い、指導の組み立てを考えていますが、その目的を達成することが出来ないとすれば、何故、どこに問題点があるのか、ということを確認して理論と実践を、子どもの言葉や作品を通して解釈したいと考え生まれたものなのです。

ご参会の先生方には、この意を十分にご理解下さいまして、この意義深い本大会を一層総り豊かなものにしていただくよう心からお願い致します。

今大会の概要は、第1日目には、連盟のこれまでの歩みと旭川での実践の積み上げを中心とした研究討議がなされて、各地区の参会下さいました先生方の意見をいただき、大会のテーマにせまろうとするのです。第2日目は、各地方の実践者による提言を中心として全道的な問題としてとらえ、研究が深められるのです。午後からは豊かな子どもの造形性とは、いったいどんなものなのかということ、子どもの作品を通して考え、望ましい作品評価のあり方等について話し合うのです。

以下順を追って内容を紹介しますと、

第1日

アニメーション制作のあり方

教育大旭川分校教授 根守悦夫

近年ますますこの教科との関連が深まりつつあるアニメーション制作について、見方、考え方、あり方等について、具体的に解かりやすく解説していただくことになっています。内容的には、

「手がきによるもの」「人形によるもの」「色紙によるもの」で映写と音声をも加えた興味ある内容が予定されています。

公開授業

幼稚園から高校までを各域額に分け旭川の20名の若手の実践者が広く全道の皆様に旭川の実践のプロセスを紹介します。なお、公開する授業の題材が、どんな考え方でとり扱われているかについては、旭川提言集の「PROCESS」を参照して下さい。

後の分科会Aで詳しく提言されることになっております。

分科会 A

1) 公開授業についての話し合い

授業は子どもが主体であると考えことから、話し合いの中に児童、生徒を参加させ、指導者の願いを子どもがどうとらえどう表現したかを参会者の先生方と直接話し合って問題点を見いだしテーマにせまろうとするのです。

2) 旭川提言

これまでの連盟の積み上げを旭川では、どうとらえ具体化したかということを中心として、題材の系統をおさえ、他領域、他教科との関連のもとに、今ここでは何をどう指導しようとしているかについての考え方を提言するのです。これは、旭川の現時点での過程であり解釈にせまられる多くの問題が含まれています。

第2日

分科会 B

幼稚園から高校までを11分科会に分けて各地区の実践者による提言をいただき、今大会のテーマである「豊かに生きる子どもの造形能力をどう育てるか」を理論と実践を通して明らかにしてゆきたいと考えているのです。

分科会 C

子どもの作品だけを見ることで、その子どものねがいや傾向、力のすべてをよみとれるわけではありません。

しかし、多くの目と、いくつかの視点からその作品を見つめる中から、ねがう子どもの立向い方、子どもを認める方向が出てくるのではないのでしょうか。

分科会Cでは、ある作品をきっかけに、代表者や参会者全員の発言をもらい、その中でできるズレを話題の柱として語りあうことから、子どもの作品をよみとることの意味や、その傾向性をおさえていきたいと考えているのです。

■ 研 究 主 題 “ ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか ”

- 幼稚園部 幼児期ののぞましい造形指導
- 小学校低学年部 あらわすことの喜びをもつ子どもを育てるための指導
- 小学校中学年部 たしかなものを作る子どもを育てるための指導
- 小学校高学年部 自分の願いをゆたかに表わす子どもを育てるための指導
- 中学校部 表現をゆたかにするための基礎的能力を生かす指導
- 高等学校部 技法練習と創造表現を関連させての指導



■ 公 開 授 業

順	学 年	領 域	題 材	授 業 者	学 校 名
1	幼稚園 A	絵 画	おもちゃの国へ行く乗り物	荒 川 晃 子	さくら幼稚園
2	幼稚園 B	製 作	ぼくの私の汽車がとおる道(粘土)	平 山 エイ子	神楽幼稚園
3	小学校 1 年 A	工 作	どうぶつえん	青 柳 明 雄	向陵小学校
4	小学校 1 年 B	絵 画	おまつり	脇 神 玲 子	東町小学校
5	小学校 2 年 A	デザイン	ふしぎな花, めずらしい花がいっぱい	朝 倉 るみ子	啓明小学校
6	小学校 2 年 B	版 画	ゆかいなサーカス	本 田 幸 市	春光小学校
7	小学校 3 年 A	絵 画	旭川まつり	飛弾野 弘 尚	春光小学校
8	小学校 3 年 B	デザイン	きれいなもようがかざろう	野 尻 春 興	大有小学校
9	小学校 4 年 A	工 作	ぼくたち, 私たちの塔	新 井 絹 枝	千代田小学校
10	小学校 4 年 B	彫 塑	中庭のうさぎ	川 口 幸 和	朝日小学校
11	小学校 5 年 A	版 画	鳥 と 私	古 屋 栄 隆	大成小学校
12	小学校 5 年 B	彫 塑	さげんでいる顔	飯 塚 礼 二	教大附属旭川小学校
13	小学校 6 年 A	工 作	未来の体育館	角 邦 雄	北鎮小学校
14	小学校 6 年 B	デザイン	きりぬきポスター	沢 田 透	神居小学校
15	中学校 1 年 A	絵 画	友 だ ち	鳥 本 捷 夫	神居中学校
16	中学校 1 年 B	デザイン	美しい飾り皿	大 西 勤	光陽中学校
17	中学校 2 年 A	版 画	黒い紙との対話(陰刻による簡易多色版画)	築 山 尚 明	北都中学校
18	中学校 2 年 B	彫 塑	動きある人物	重 山 恵	永山中学校
19	中学校 3 年 A	鑑 賞	カレーの市民	大久保 正義	教大附属旭川中学校
20	高等学校	デザイン	ポスター=我々の学校祭のために	宮 本 俊 雄	北都商業高校

■ 分 科 会



分 科 会 A (第 1 日 目)					分 科 会 B (第 2 日 目)				分 科 会 C (第 2 日 目)
司 会 者 名	領 域	提 言 者	司 会 者	記 録 者	司 会 者 名	領 域	提 言 者	司 会 者	分 科 会 名 義 者
1. 幼稚園	絵 画 製 作	○池島みち子 (さくら) ○平山エイ子 (神 楽) ○泉 秀雄 (朝日小)	○石丸 雅晟 (室蘭・東園小) ○砂金 隆 (本部・手稲中央) ○工藤 正 (旭川・朝日小)	辻 藤 () 塚 田 (藤) 中 島 (藤)	1. 幼稚園	絵 画 製 作	○北間 恵子 (札幌・手稲中央) ○齊藤 幸子 (函館・函館)	○石丸 (室蘭) ○砂金 (本部) ○工藤 (旭川)	1. 幼稚園 小学校低学年 ○脇神 玲子 (旭川・東町小) ○刑部千加雄 (旭川・大町小)
2. 小学校 1 年 A	工 作	○宮田 静二 (向陵小)	○岩田 宏一 (根室・標津小) ○柳原 寿夫 (旭川・教大附小)	鳥 (向陵小) 阿 部 (神居小)	2. 小学校 低学年 A	工 作 絵 画	○源 紀一 (上川・維文小) ○室久尾 豊 (帯広・豊成小)	○岩田 (根室) ○遠藤 (本部) ○柳原 (旭川) ○刑部 (旭川)	
3. 小学校 1 年 B	絵 画	○脇神 玲子 (東町小)	○遠藤 久男 (本部・美香保小) ○刑部千加雄 (旭川・大町小)	吉 本 (新富小) 今 関 (東町小)					
4. 小学校 2 年 A	デザイン	○島田 俊英 (雨紛小)	○吉田 義晴 (北見・開成小) ○阿部 国良 (旭川・啓明小)	山 (江丹別小) 広 瀬 (日新小)	3. 小学校 低学年 B	デザイン 版 画	○志津 照男 (後志・俱知安小) ○小野 博正 (札幌・月寒東小) ○高橋 忠昭 (網走・砥草原小)	○吉田 (北見) ○松 島 (本部) ○阿 部 (旭川) ○首 藤 (旭川)	
5. 小学校 2 年 B	版 画	○川島 信也 (春光小)	○松島 輝男 (本部・白揚小) ○首藤 薫 (旭川・青雲小)	中 村 (神楽岡小) 永 倉 (青雲小)					
6. 小学校 3 年 A	絵 画	○新飯田 登 (北光小)	○青山 清輝 (美唄・峰延小) ○深瀬 智且 (旭川・大町小)	千 葉 (永山小) 山 本 (永山西小)	4. 小学校 中学年 A	絵 画 デザイン	○牧野 和夫 (上川・扇山小) ○長野 昭 (札幌・北園小)	○青 山 (美唄) ○森 川 (本部) ○深 瀬 (旭川) ○小 川 (旭川)	2. 小学校 中 学 年 ○飯塚 礼二 (教大・附属小) ○青山 清輝 (美唄・峰延小)
7. 小学校 3 年 B	デザイン	○渡辺 正勝 (正和小)	○森川 昭夫 (本部・本町小) ○小川 猛 (旭川・教大付小)	工 藤 (新町小) 沢 田 (新富小)					
8. 小学校 4 年 A	工 作	○小倉 孝 (神居小)	○安久 達雄 (帯広・明星小) ○飯塚 強 (旭川・神居小)	山 本 (千代田小) 四 十 物 (神居古瀬小)	5. 小学校 中学年 B	工 作 彫 塑	○水本 凱也 (空知・砂川小) ○土井 誠 (日高・賀張小)	○安 久 (帯広) ○側 瀬 (本部) ○飯 塚 (旭川) ○氏 本 (旭川)	
9. 小学校 4 年 B	彫 塑	○宮下 林 (近文小)	○側瀬宇太郎 (本部・平岸小) ○氏本 利光 (旭川・永山中)	相 内 (神居小) 永 沢 (第七小)					

分科会 A (第1日目)					分科会 B (第2日目)				分科会 C (第2日目)
分科会名	領域	提言者	司会者	記録者	分科会名	領域	提言者	司会者	分科会名
10. 小学校 5年A	版画	○古屋 栄隆 (大成小)	○鈴木 利彦 (函館・彌生小) ○伊藤 仁志 (旭川・第三小)	小笠原 (神楽小) 根本 (神楽小)	6. 小学校 高学年A	絵画 彫塑	○清野 満敏 (渡島・大中山小) ○吉田 倭雄 (札幌・発寒小)	○鈴木 (函館) ○金井 (本部) ○伊藤 (旭川) ○掲田 (旭川)	3. 小学校 高学年 ○古屋 栄隆 (旭川・大成小) ○新飯田 登 (旭川・北光小)
11. 小学校 5年B	彫塑	○飯塚 礼二 (教大附小)	○金井 秀男 (本部・幌西小) ○山田 武 (旭川・北星中)	地 徳 (聖和小) 小笠原 (豊岡小)					
12. 小学校 6年A	工作	○松藤 浄治 (北鎮小)	○池本 良三 (苫小牧・東小) ○西村 隆 (旭川・常盤中)	高 橋 (北鎮小) 永 沢 (北鎮小)	7. 小学校 高学年B	工作 デザイン	○加藤 広志 (稚内・東小) ○北林 年彦 (上川・風連小)	○池本 (苫小牧) ○佐藤 (本部) ○西村 (旭川) ○松浦 (旭川)	
13. 小学校 6年B	デザイン	○西道 喜代 (神楽岡小)	○佐藤吉五郎 (本部・幌海小) ○松浦 正美 (旭川・中央小)	木 村 (神楽岡小) 中 田 (春光小)					
14. 中学校 1年A	絵画	○中西 清治 (常盤中)	○加地 保良 (十勝・本別中) ○森田 喜昇 (旭川・雨紛中)	中 田 (養護) 真 岸 (北星中)	8. 中学校A	絵画 版画	○藤井 正治 (稚内・稚内中) ○宮崎 弘 (上川・当麻中)	○加地 (十勝) ○森田 (旭川) ○三上 (旭川)	
15. 中学校 1年B	デザイン	○鈴木 俊昭 (光陽中)	○森 健 (本部・中島中) ○沢 繁雄 (旭川・六合中)	鳥 本 (六合中) (上川地区)					
16. 中学校 2年A	版画	○築山 尚明 (北都中)	○三上 享 (旭川・北都中)	山 野 (るう) (上川地区)	9. 中学校B	デザイン	○清水 克美 (根室・標津中) ○島 昇二 (札幌・新琴似中)	○森 (本部) ○沢 (旭川)	
17. 中学校 2年B	彫塑	○及川 輝夫 (東光中)	○坂田 武夫 (本部・八条中) ○寺原 実 (旭川・常盤中)	関 (旭川中) (上川地区)					
18. 中学校 3年A	鑑賞	○杉山 徹 (聖園中)	○大谷 勝美 (上川・置柞中) ○滝田 明男 (旭川・北門中)	朴 谷 (北星中) (上川地区)	10. 中学校C	彫塑 鑑賞	○上田 薫 (留萌・増毛中) ○片桐 勉 (苫小牧・啓北中)	○大谷 (上川) ○坂田 (本部) ○寺原 (旭川) ○滝田 (旭川)	
19. 高校	絵画 彫塑	○野上 好彦 (旭川東高) ○佐藤 範夫 (旭大高)	○笠原 康正 (留萌・留萌高) ○土岐 禎次 (本部・北高) ○小林 健児 (旭川・北高)	(市内高校)					
					11. 高等学校		○中村 矢一 (札幌・月寒高)	○笠原 (留萌) ○土岐 (本部) ○小林 (旭川)	





おもちゃの国へ行く乗物

指導 荒川 昱子
園児 大谷さくら幼稚園27名

1 題材について

こどもの日常は、自然に夢の世界に入りこみ空想の中にいる。こどもの夢は、自分の願望や欲求と結びついて限りなく広がる。ここでは、みんなでおもちゃの国へ行こうという場面を設定し、わたしがのって行く乗物は、どんな乗物がふさわしいかを考えさせ、自分がその乗物にのって行く気持ちにさせて、描かせることにより、楽しい夢の世界にひたらしたい。そこでクレパスを用い、思い思いの色を自由に使いのびのびと描かせたい。

5 本時のながれ

幼 児 の 活 動	指 導 上 の 留 意 点	準 備
<ul style="list-style-type: none"> ○乗り物について話す。 ○こんな乗り物があったらいいなあ と乗りたい物を自由に話し合う。 ○乗りたいものの絵を描く。 ○あとかたづけをする。 ○友達の絵をみる。 ○手を洗う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○おもちゃの国を設定し、みんなでこんな乗り物があったらいいなあと話を ひきだす。 ○画面いっぱいのにびのびと楽しく描かせる。 ○個別に指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・はげます助言 ・ひきだす助言 ・ほめる ○みんなの絵を楽しく見る様に導く。 	<p>クレパス 画用紙</p>

2 題材のめあて

こどもの夢を楽しく、豊かに表現させたい。

3 指導計画

いろいろな乗り物について話し合う。 (言語)

ブロック・積み木でのりものを作ってあそぶ。 (社会・絵画製作)

乗り物の歌や表現あそびをする。 (音楽リズム)

おもちゃの国へ行く乗り物の絵を描く。 (絵画製作)

4 本時のおさえ

- ・自分がその乗り物にのっている気持ちにさせる。
- ・大きくかかせる。

ぼくの私の汽車がとおる道（粘土）

指導 平山エイ子
園児 市立神楽幼稚園 45名

1 題材について

乗り物ごっこの遊びをとおして、子どもは乗り物に対して関心が高まっている。前時ではそれぞれ木片で汽車を作り自分の作った汽車で楽しく遊んでいる。本時はぼくの私の汽車がとおる道のまわりには、どこにどんなものがあつたら楽しいか考えさせながら、可塑性である粘土を使い、いろいろなものを作らせ、子どもなりの楽しい夢を持たせ造形への芽を育てたい。また個々に製作した作品ではあるが、それぞれが共通な空間を持つことにより、そこには共同製作への芽生えが存在しよう。

ここでは共同製作への足がかりを作るとともに、完成した作品でしっしょに遊ぶことから、仲間意識を育てることに意義を持たせたい。

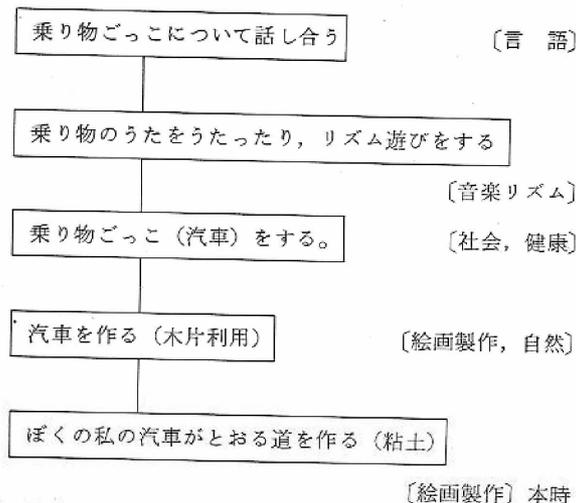
5 本時のながれ

2 題材のめあて

素材の特質を利用して、のびのびと作らせ楽しく遊ばせたい。

3 指導計画（1週間）

乗り物ごっこ



4 本時のおさえ

- 粘土を使って楽しく表現する。
- 作ったもので仲よく遊ぶ。

幼児の活動	指導上の留意点	準備
<ul style="list-style-type: none"> ○準備して教室に入る。 ○汽車ごっこをしてあそぶ。 ○作った汽車であそぶ。 ○汽車がとおる道のまわりには、どんなものがあるか話し合う。 ○粘土でつくる。 ○みんなで汽車をとおらせて遊ぶ。 ○他のグループの作品をみてまわる。 ○あとかたづけをする。 ○手を洗う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○粘土遊びに適する服装などに留意する。 ○グループごとに楽しく遊ぶようにする。 ○自由に遊ばせる。 ○汽車に乗った経験などからトンネル、山、鉄橋、駅などをひきだす。 ○作りやすいように共同板の上に大小の粘土のかたまりをおく。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師はグループの中に入り発想の手助けをする。 ・少しのくふうでも認めてやる。 ○作ろうとするものを思い思いに表現させる。 ○グループごとに楽しく遊ばせる。 ○列になってまわる。 ○時間の関係で作品はそのままにしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> プレーヤー レコード 共同板 粘土 テープ わりばし ひもなど ぬれぶきん バケツなど





どうぶつえん

指導 青柳明雄
児童 向陵小学校 38名

1 題材について

子どもたちは動物が大好きである。できることなら「ぞう」や「きりん」を自分の家で飼いたいと思っている。その願いを絵にかくことから、さらにその作品を立ててみる経験を通すことによって、より夢をかなえさせてやりたい。

紙を切る、折る、接着するなど将来の高度な立体表現への発展を願うこの題材をとりあげた。

できあがった作品よりも、喜々としてとりくむ姿の中でなされた努力や工夫を大切にしていきたい。

個々がただ作るだけでなく、持ちより、集合による動物園作りとして扱うことにより、喜びを一層大きなものとしたい。

2 題材のめあて

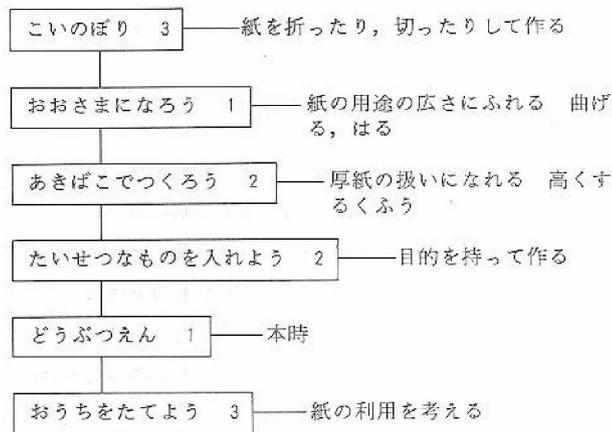
5 本時のながれ

ながれ	教師のはたらきかけ	予想される児童の活動	留意点
準備	・用具点検		・採光、通気などに気をつける
条件提示	・動物園にするベニヤを見せる ・今日は動物園を作ろう ・作ってみたい動物は何だろう ・紙で作るんだけど、できるかな ・これでいいかな（資料提示） ・立てることに気づかせる	・動物園を見た経験や見た動物について話す ・できる、できない、むずかしい ・これでは立たないよ	・それぞれの理由をきき、見通しをつかませる
条件理解	・立てるためにどうしよう ・子どもの考えたものから例をひき考え徹底させる	・ためしてみる ・たしかめる	・練習用紙で実際にやりながらくふうする
構想	・これでさっき考えた動物がつかれるだろうか ・顔やシッポなどはあとからつけてもよい	・紙を折る、まげるなどしながら考える	
表現	・何を作るか、決まった人からはじめよう 個別指導（発想指導）	・立つように確かめながら作る	・紙の立て方は自由にする ・技法、用具の扱いに気をつける
修正完成	・悪いところをなおそう ・動物の特徴を表わす模様などで美しくかざろう		・くふうされているところをみとめ
鑑賞	・動物園を見よう	・あとしまつ	め合う

- (1) 動物の特徴を考えながら楽しく表現する。
- (2) 一枚の紙を立てるくふうをする。
- (3) 紙を切る、折る、はることなどに慣れる。

3 指導計画

紙工作の本時につながる系統



4 本時のおさえ

- (1) 願いを大切にしながら、作り上げる喜びを味わう。
- (2) 紙とのふれ合いを深める。

おまつり

指導 脇神玲子
児童 東町小学校 40名

1 題材について

4月に入学した児童たちも、どうやら学校生活になれ、心のゆとりがでてきたようである。これまで何度か学校のくらしを中心に絵をかいてきたが、この時期にあたって、学校のくらし以外のことがらに題材を見つけることは児童に新鮮な感動をもたせることになると考える。その意味で、先日行なわれた郷土のまつり上川神社の祭典は、恰好の題材であると思われる。

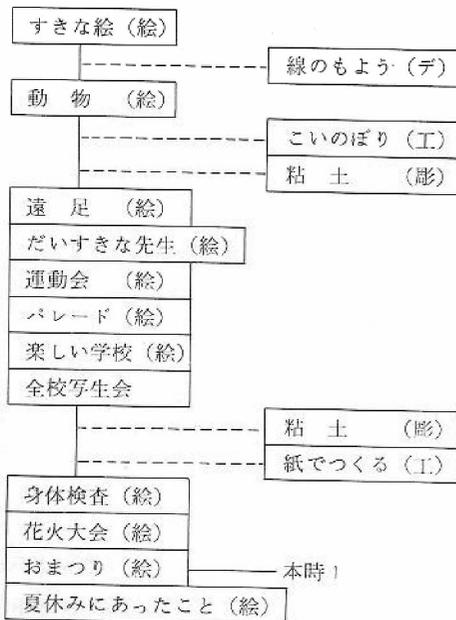
まつりで感じた、にぎやかで楽しい雰囲気は、児童の目と心にひびき興味と関心をよびおこさせるのではないだろうか。

2 題材のめあて

- ・心にとめていたことを、のびのびと表現させる。
- ・新しい素材（和紙）を使った表現のたのしさを味あわせる。

5 本時のなかれ

3 指導計画



4 本時のおさえ

- ・どの場面をえらんでかくか。
- ・中心になるものを、はっきりとらえる。

	教師のはたらきかけ	児童の活動	備考
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を確認させる。 ・おまつりの印象深いことについて話し合わせる。 ・音響効果で、まつりの様子を思い出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合う。 ・目をとじて聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・O.H.Pを使用する。 ・テープの用意。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・にぎやかで楽しいまつりの様子を、紙いっぱいにかくことを話す。 ・個別的に指導する。 よい点を見つけ賞揚し、表現意欲をかきたてることをはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの場面をかくか決める。 ・表現しようとするところがらを、画面になぞってみる。 ・元気に、力いっぱい、大胆に線描する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こだわらずに ・乱暴にならないように ・誠実にかく
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・まつりの様子がわかるか。 みんなでみまわりながら話し合わせる。 ・あとかたづけをさせる。(学習の整理) ・次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・まつりのどの場面かわかる。 ・にぎやかさ、楽しさがあるか。 ・整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想をのべる。 ・作品の処理





ふしぎな花・めずらしい花がいっぱい

指導 朝倉 るみ子
児童 啓明小学校 43名

1 題材について

子どもは1年生のデザイン学習によって、描く模様、はる模様等、多くの色を使って自由に模様作りをすることができるようになってきている。2年生としての教師の目ざす方向や願いは、子どもが生活体験の中から得たヒントや新発見によって、それを使い、表現する楽しさや喜びを感じさせ、<並べ方をくふうしたり形の変化を考えたり、与えられた条件に適したアイデアがうかぶようになったり、描く・塗る・切る等を適切に美しく表現できる子どもになるよう。>こどもの素直な日常の造形活動を通して感覚的に表現する能力を身につけさせるよう目ざしたい。模様作りは、いっぱい描かせれば模様になる要素は多分にあるが、同一のパターンをいっぱい並べる模様において描く模様はかなりの根拠を必要とした。ここでは<花><魚><虫>等同一のテーマであ

5 本時のながれ

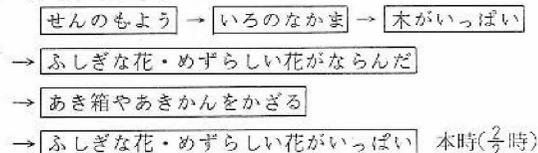
分節	与えるもの	学習活動の経路	ひきだすもの	おもな教師の発言・助言
5	準備 ・準備用具の確認 ・創作した花を協力して台紙に並べはることを知らせる。 ・パネルに掲示してある台紙をグループに配布。 構想 ・グループごとに相談させる。	本時の学習手順を知り見とおしを立てる ↓ グループごとに台紙にはる並べ方を相談する ↓ 台紙の上に花をいろいろ置いてみる ↓ 花を台紙にいっぱいはる ↓ パネルに掲示する ↓ 不足の所はつけ加える ↓ 他のグループの作品を見てまわる	・グループで選んだ形の台紙にいっぱいの花を並べることを意識する。 ・花と花との重なりぐあいをくふうしてはる。	・使うものがそろっていますか。創作した花・糊・新聞紙・手ふき・クレヨン・カラーペン・色紙・両用紙・はさみなど。 条件 台紙の形、花の大きさ、色などを考えて並べてみましょう。 平らに描いた花は先に、とび出した花は後に糊づけしましょう。 ・どう思いますか。
35	表現 ・花を台紙にはらせる。 ・完成したらパネルに掲示させる。			
5	鑑賞 ・友だちの作品を見て、そのよさを見出させる。			

ればどれでもよいが、子どもの希望から、身近にある花のテーマをとりあげた。同一テーマの中で1つずつパターンを違えて表現させることによって<こんな花があったらいいなあ><どこの野山や畑にも咲いてなくて、お花屋さんにも売っていないふしぎな花やめずらしい花を作るんだ>という表わすことへの願いや期待にあふれた子どもたち、発展として、ここでの指導は各自創作した花を持ちよってみんなで力を合わせ<いっぱい並べる>という共同作業を通して目ざすものに近づかせたい。

2 題材のめあて

- (1) いろいろな素材を使って独創的な花を創作させる。
- (2) グループで協力し合い決めた配列に画面構成させる。

3 指導計画



↑ 別紙記載
↓

4 本時のおさえ

独創的な花(ふしぎな花やめずらしい花)をグループで決めた配列で共同で台紙にはり画面構成させる。

ゆかいなサーカス

指導 本田 幸市
児童 春光小学校 38名

1 題材について

こどもにとってサーカスは驚きと感動の多い経験である。この経験を力動的なイメージとしてとらえさせ表現させたい。

1年生では、紙版による簡単なスタンピングやフロッタージュを経験して版画的な表現をしてきたが、ここでは、プリンティングの際の偶然的なおもしろさができることに気づかせ、サーカスを自分のイメージとしてとらえさせ、華やかな色彩を多色刷りで表現させることによって、工夫し、あらわすことを通して豊かな造形の喜びを味あわせたい。

表現材料には、いろいろな材料を使わせて材料の幅を広げ、ローラやバレン等の版画用具になれさせたい。

2 題材のめあて

- ・サーカスを見た感動のイメージを効果的に表現させ、児童の欲求を満足させるとともに、創造性をのばす。
- ・事前に習得した、版画技法の応用や色彩を取り入れることによって効果的表現を工夫する。
- ・出来た作品を鑑賞し合い次の創造意欲を高める。

5 本時のながれ

	教師のはたらきかけ	予想される児童の活動	備考
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいをつかませる。 ・作業手順を明確につかませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを知り作業の手順を把握する。 ・刷りの方法を知る。 ・プリンティングのしかたがわかる。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・色の効果的なつけ方を各自の作品のねらいに応じて工夫するようにさせる。 ・台紙に配置を考えて刷らせる。 ・子どものイメージに近づけさせる。 ・プリンティングのしかたがわかる。 ・作品をよごさないようにさせる。 ・作品を掲示させる。 ・友達の作品を味わい努力を感得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色を選んでローラにつける。 ・画面の配置を決める。 ・刷り方を工夫する。 ・自分の思うようになっていくか見る。 ・さらに画面の必要なものを考える。 ・ちぎったり、折ったりして刷りを工夫する。 ・自分の作品を見て効果的な表現を考える。 ・ていねいに扱う。 ・満足した作品を各自、場所を選んでかざる。 ・全員でかざってある作品を楽しく見て回る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・切り取り紙版 ・バレン ・台紙 ・油性インク ・プリンティングの材料 ・ハサミ ・針金につるす
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が感じたことを話し合わせる。 ・後かたづけをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことを発表する。 ・協力して後かたづけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自自由に

ゆかいなサーカス

1/4 下絵をつくる

(サーカスの感動を入れた)

1/4 版を作る

1/4 版の仕上げ

1/4 刷り 作品完成

作品鑑賞

(本時)



4 本時のおさえ

- 効果的な刷りを工夫し、作品を完成させる。
 - 切り取り紙版の多色刷り
 - 画面配置の工夫により、イメージを盛りあげる
 - プリンティング効果による表現の追求
- 児童個々が主体的に活動し、発見の喜びから、創造の喜びへと表現の意欲を高めていく。
- 出来た作品を全員で鑑賞し、満足感とともに次への新しい意欲をもたせる。



旭川まつり

指導 飛弾野 弘 尙
児童 春光小学校 40名

1 題材について

7月日は郷土旭川のおまつりである。子どもたちはこのおまつりを自分のからだで感じとり、楽しい思い出として残している。これは、よりたしかな記憶による表現をさせる絶好のチャンスである。このようなことがらを見つけ、それを、子どもの目と心とでとらえて描いていくには、子どもの造形能力を育て経験の幅を広げ、豊かな目と心にするためにも大切なことであると考えている。

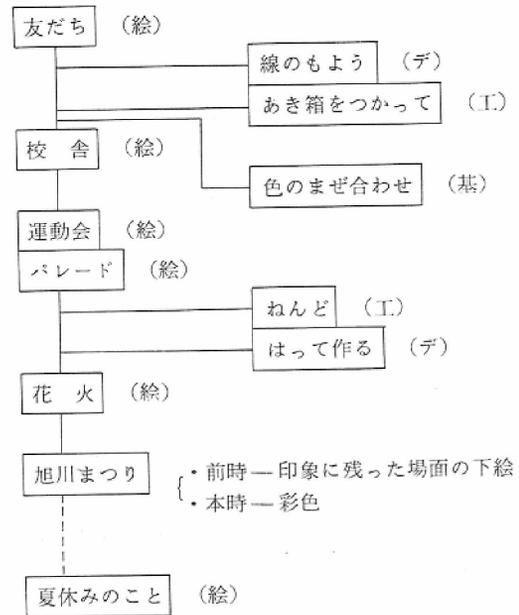
2 題材のめあて

- ・おまつりの実感を通して、深く印象に残ったことの中から自由にかかせることによって表現の楽しさを味わせる。
- ・たしかな記憶をよびおこし、しっかりした線や、くふうした色で表現させる。
- ・和紙と墨を生かしておまつりの雰囲気児童の心で表現させたい。

5 本時のながれ

3 指導計画

・1学期中に指導したもの



4 本時のおさえ

- ・印象や感動を盛りこみながら彩色をくふうさせ、用具、材料のつかい方になれさせる。
- ・自分の表現したいおまつりの色が独創的に表現できるようにしたい。

教師のはたらきかけ	児童の活動	留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を確認させる。 ・彩色について話し合う。 おまつりの雰囲気を感じさせる色を考えさせる。 ・音響効果でおまつりの情景を再現させる。 ・印象や感動を盛りこんで彩色させる。 ・巡視して個々のよさを見つけてほめ助言を与えながら意欲の持続を図る。 ・作品を見て話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の感じたこと、表わしたいと思ったところを述べさせる ・よくできていると思うところをさがさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おまつりで感じた色を発表して、たくさん種類の色のあることを考える。 ・目をとじて静かに聞く。 ・おまつりを思い出し感動を受けた場面の下絵におよその色をなぞってみる。 ・作品をもとにしてお話する。 ・あとかたづけ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・O.H.Pを使用する。 ・テープを聞かす。 ・大まかな感じをまずとらえ、全体から部分へ、部分から全体へ。 ・おまつりのようすを思いだしながら話しをすすめる。

きれいなもようでかざろう

指導 野尻春興
児童 大有小学校3年43名

1 題材について

- ・低学年より引続き本学年においてかざる本能を満たしてやる事は子供達の日常生活に生々とした喜びを与え、創造意欲をかりたせるものである。
- ・「きれいなもようでかざろう」と言う題材は今迄してきた学習をより一歩深く、自分で考え、見る、表わすという一つの流れを更に子供達のねがいを含めて表出させる様にと考え本題を設定した。
- ・また種々の教材（材料）を経験する事により、より高いアイデアを表現活動に結びつけさせたいと願っている。

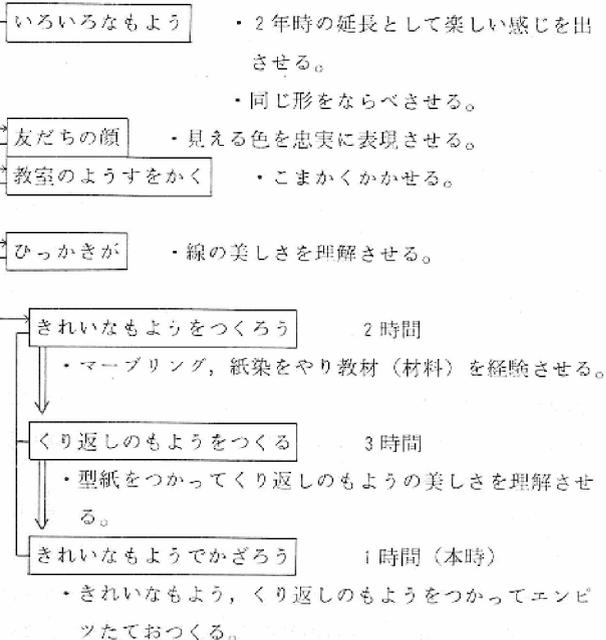
2 題材のめあて

- 1) 同じ形のくり返しのもようを紙染、型紙をつかって制作し、ならべ方をかえさせることにより、美しさが変わることを理解させる。
- 2) 明るい配色へ関心をもたせる。
- 3) いろいろな表現法があることを理解させる。

5 本時のながれ

田 ねがいにあったもようをえらび、かざることができるようにする。

3 指導計画



4 本時のおさえ

- ・エンピツたてを自分のねがいにあったもようを使い、かざれるようにさせる。



	あ た え る も の	表 現 活 動	ひ き だ す も の
5 準 備	<ul style="list-style-type: none"> ・空かん、もよう（いままでにつくった）のり、その他 ・きれいなもようでもうエンピツたてをかざること知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の手順について見通しをたてる。（きれいなもようでかざる） 	<ul style="list-style-type: none"> ・エンピツをおく場を考えさせる。
15 条 件 構 想	<ul style="list-style-type: none"> ・明るくて楽しい色、形を考えさせる。 ・美しい部分や明るく楽しい配色を見つけさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・かざるもようをえらぶ。 ・どのようなもようを切りとるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のねがいにあった色、形を見つけさせるようにする。
20 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のねがいに合わせてはらせる。 ・用具（ハサミ・定木）のつかい方になれさせる ・作品をよごさないように大切にみつかわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もようをえらび、きる。 ・もようをきれいにはる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・のりのつけ方を教えさせ自分の思う通りにはらせる。
10 鑑 賞	<ul style="list-style-type: none"> ・よいものをえらばせる。 ・グループでよいものをえらびみんなにみせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を見る。 ・自分のねがいがあらわれたかどうかたしかめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かざるデザインを理解させる。



ぼくたち、わたしたちの塔

指導 新井 絹子
児童 千代田小学校 45名

1 題材について

この時期の子どもたちは高く美しい塔に強い興味と関心をもっている。そこで紙を使って構造的な表現を取り扱い、初歩的な構造の学習をさせるためにこの題材をとりあげた。ここではどこでもみられる新聞のちらしをパイプ状にして紙の強さを把握させ、これを自分たちのねがいにあった塔を作りながらじょうぶに組み立てる工夫をさせたい。又この学年は計画性の芽ばえる時期でもあるので発想—計画—製作—仕上げという見通しをたてたしかなものを作る子どもを育てたい。

2 題材のめあて

- ・紙をじょうぶに使うことをくふうさせる。
- ・子どもらしい創造的な塔の形を考えださせる。
- ・どうしたらじょうぶな塔ができるか、組み立て方を工夫して作らせる。
- ・計画的に根気よく作業をすすめる態度を養う。
- ・友だちと協力して楽しく学習をすすめる。

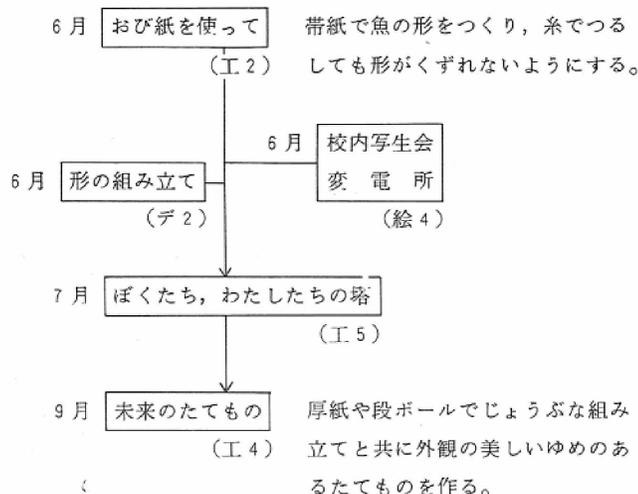
5 本時のなかれ

な が れ	教 師 の は た ら き か け	予 想 さ れ る 児 童 の 活 動	留 意 点
準 備 条件提示	・本時の学習の目あてをつかませる。 ・高くてくずれない、美しい塔にしよう。	・準備	・計画通り準備はできたか確認させる。
条件理解	・グループの塔の「ねがい」を発表してください	・自分たちの作ってみたい塔の「ねがい」を発表する。	・実在の塔や他人のまねでなく各児童がそれぞれに考えだした形を尊重する。
構 想 表 現	・材料の性質を調べ生かすようにさせる。 (つなぎ方、切り方、曲げ方、強さ弱さ) ・本時の作業順を話す。 個別指導	・どこから作っていったらよいか考える ・友だちと意見を交換しながら作業を分担して組み立てる。	・用具の使用に気をつけさせる。 ・確実な接着をするよう注意する ・組み立ての工夫をしている児童には賞賛し励ます。
鑑、賞	・友だちの作品を見よう。 ・次時の予定を話す。	・自分たちの作品の途中経過を発表する	

3 指導計画

- | | | |
|------------------------|-----|--------------------------------|
| ① 紙のパイプを使って | 1時間 | |
| ② ぼくたち、わたしたちの塔 | 1時間 | |
| アイデアスケッチ, グループで計画をたてる。 | | |
| ③ 組み立てる | 2時間 | 本時 ¹ / ₂ |
| ④ 組み立て完成, 鑑賞 | 1時間 | |

関連題材



4 本時のおさえ

- ・高くてたおれないじょうぶな組み立てをする。
- ・自分たちのねがいにむかって友だちと協力して仕事をすすめる。

中庭のうさぎ

指導 川口 幸和
児童 朝日小学校・42名

1. 題材について

動物は子どもたちの友だちである。子どもたちは動物に話しかけたり抱いたりして夢をもって接する。そのような子どもたちの心情を大切にしながら動物の姿をよく観察し、肌でとらえ、よりたしかで感動のある作品へと高めたいと考え、他教科との関連も考慮し、子どもたちが中庭で毎日飼育している兎を製作することにした。

概念的な見方や表現に固まりつつある者の多い中学年ではもっと感覚的にそして素直に自分の感動を表わすと同時に正しく物を見つめ技術的にもたしかなものを創ることを学ばせたいと思う。ここでは生きた兎を見た素直な受けとりから「この塊の中に兎がいるよ」ということばを大切に、兎の特徴や動きに気づかせ、ひとかたまりの粘土の中に表現させたい。

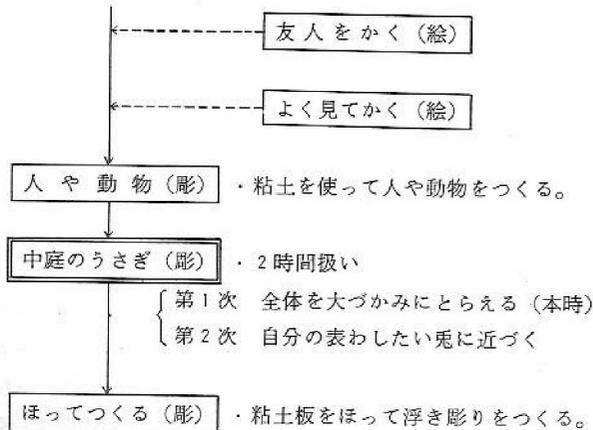
2. 題材のめあて

- ・見たり、ふれたりして観察を深め、たしかな表現へと導く。

5. 本時のながれ

- ・粘土を使い兎の特徴や動きを大きくとらえる。
- ・粘土の扱い方や表現の方法を工夫させ、なれさせる。
(けずりとる、ひねりだす、くっつける……)

3. 指導計画



4. 本時のおさえ

- ・「○○としている兎」「わたしの見た兎は○○していた」など、自分の表わそうとするすがたをきめる。
- ・「粘土の塊の中に兎がいる」を大切にしながら、どこをけずりとり、ひなり出し、どこにくっつけたりしていくかをつくる中で考えていく。



指導のねらい	学習活動	指導の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習のめあてを確かめさせる。 ・兎のいろいろ動くすがたを観察する。 ・どんなようすの兎を表現するか考えさせる。 ＜粘土の塊から兎へ＞ ・大まかな形をとらえさせる。 ・動きに気づかせ各自のイメージに近づけさせる。 ・まとめ、次時への意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の彫塑学習をふりかえり話し合い、今日の学習について考える。 ・兎にさわったり、遊んだりして、兎の動きを観察する。 ・自分の作りたい兎を決める。 ・兎の特徴や動きをどこに見つけたか。 ・自分の表わしたい兎をはっきりする。 ・どちらを頭に、どちらをおしりにするか決める。 ・手で確かめながら、頭やからだの大きさの見通しをたてる。 ・けずりとったり、ひねりだしたりして大まかな形に近づける。 ・耳や足の部分をつくることで動きを一層はっきりさせていく。 ・困ったこと、うまく表現できたことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな角度からみさせる。 ・よく見れるようにグループに1わずつ。 ・見ぶりをさせて話させる。 ・配った粘土を分けたり、切ったりしないように。 ・グループ指導に当る。 ・動きが単的に表現されている作品をみんなに見せる。



鳥 と 私

指導 古屋 栄 隆
児童 大成小学校 37名

1 題材について

子どもは動物が好きである。毎日中庭の小動物の囲りに集まり学校生活の中でもかかわり合いが多い。

子どもたちに親しまれている鳥をいろいろな角度からとらえさせ自分の考えを素直に表現させたい。ここでは鳥と私とが何かしている場面を個々の児童が設定し鳥と私とのかかわり合いを一つの画面に構成することによって、子どもの豊かな夢や願いをおこませたい。ここでの指導は、児童のそれぞれが個性的な表現を計画的に画面構成を考えながら制作することを主眼としている。

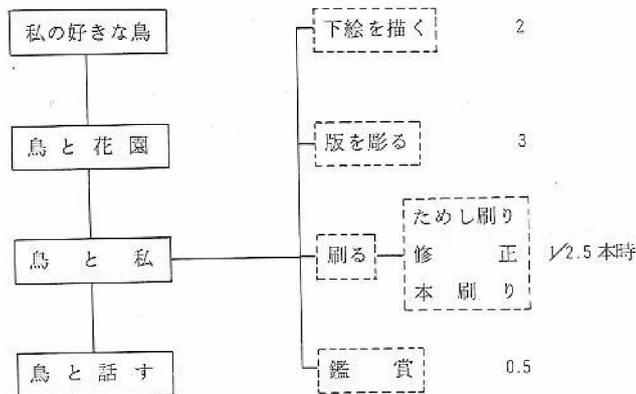
そして指導の要素としては構図のとり方、刷りの技術などを深め、線による表現から面の表現へと発展させ陽刻による表現になれさせ、白黒のおもしろさに注意をむけさせたい。

2 題材のめあて

- 考えを持ち、表わす態度をそだてる。
- 版画の特質を知り、興味や関心を深めさせる。

5 本時のながれ

3 指導計画



4 本時のおさえ

1. 自分の願いが表現できたかどうかを確かめながら願いに少しでも近づこうと努力させたい。
2. 版画用具の使い方を知り、刷りの技術を高める。
 - プレス機の使い方
 - ローラーの使い方

	教師のはたらきかけ	予想される児童の活動	備 考
導 入	<ul style="list-style-type: none"> • 学習の内容をたしかめながら問題の摘出と解決の手順を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 本時の学習の手順についてたしかめ見とおしを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 準備を念入りに。 • 予備的な知識をおさえる。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の願っていたことと結果を比較させる。 • 用具の扱い、技法上の問題点についての助言。 	<ul style="list-style-type: none"> • ためし刷り 自分の願いとのずれを発見したときは修正する。 • 修正 	<ul style="list-style-type: none"> • プレスの圧力、版の通し方 インクのはけ方（ローラーの使い方） • 版のよしあしか、刷りのよしあしかははっきり区別して考えさせる。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> • 典型的な作品をえらんで学習の一般化をはかる。 • 学習の整理 	<ul style="list-style-type: none"> • くりかえし追求して自分の願いに近づこうと努力する。 • 話し合い それぞれの作品をもとに話し合う。 • 引きつづき仕事を進める。 • 整理・後仕末をする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の考えを話し合う。 • 作品の処理

さげんでいる顔

指導 飯塚 礼二
児童 附属旭川小学校 40名

1 題材について

人物を描いたり、つくったりするとき、大事なことは何かという問いに対して、ほとんどの子どもたちは「特徴をとらえること、表情を表わすこと」などをあげる。しかし、顔の特徴をかたまりの意識でとらえているものは少ないし、構想の段階では大づかみにとらえていくことはできるが、作りながら自分のねがいを確かめるといふ組みには弱さがある。

この題材では、顔そのものを確かにとらえることもねらうが、「さげんでいる」という言葉から受けるイメージを大切に表現させたい。驚ろき、怒り、よろこびなどの顔をつくっていくために、でっぱりやくぼみ、たて横の長さの関係など、形になるきかけをきちんと考えていく中で、ひとりひとりの感じ方、表現のし方のよさを認めてやりたいと思う。

表現材料として石こうのついた布を使い、新しい経験を通して子どもの意欲が一層高まることを期待する。

2 題材のめあて

顔を大まかに面としてとらえ、自分なりの考えに合った形の発

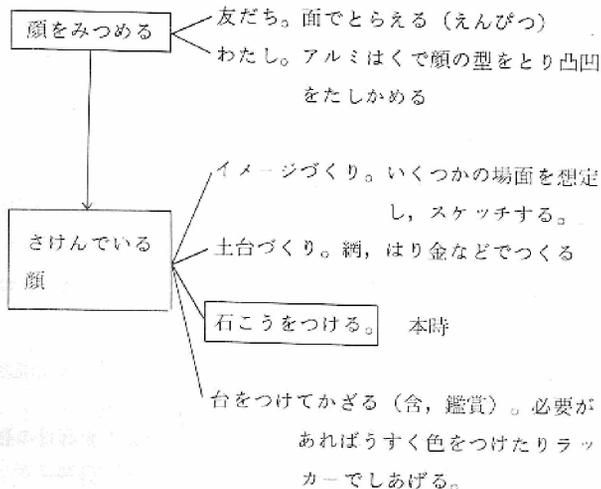
5 本時のながれ

見と表現方法のくふうをする。

- 顔の凸凹に注意して見たりさわったりしてとらえる。
- 表わそうとすることを確かめながら追求していく。
- 全体と部分のひびき合いを考えて、自分のねがいが表われるように技法をくふうする。



3 指導計画



4 本時のおさえ

- 大まかな形（面のとらえ）と部分的に強調するところ（口、目、鼻など）をたしかにおさえ、ねがいを深めさせる。
- 材料の性質をよくおさえ、見直しをもって仕事をする。

指導のおさえ	学習活動	指導の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・各自のねがいを確かめさせる。〈ねがいと形〉 ・材料の性質と仕事の順序をおく新しい材料 さえる。 ・大まかな面で追求。 ・部分の追求と強調するもの。〈ねがいの追求〉 ・もうひとつの課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・強調することを各自はっきりさせる。 ・仕事の順序を確認する。 ・材料についてしらべる。布のきり方、水のつけ方、どこからつけていくか。 ・ねらいを単的に表わす面からつける。 ・さげんでいる口、目、鼻などを全体の関係の中でつくりだしていく。 ・作品をもっとすばらしくする方法は ・てきばきとあとしまつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・2, 3人が発表。 ・学習の進め方をO.H.Pで示す。 ・教師がやってみせる。 ・大きな凸凹として、あご、ほっぺた、ひたいなどに目を向けて 〈グループ指導〉 ・口、目、鼻などはっきり意識させる。 ・台をつけることへ目を向けさせる



未来の体育館

指導 角 邦 雄
児童 北鎮小学校 42名

1 題材について

子供達は過密学校なので運動がじゅうぶんにできない状態にあり、広い体育館でいろいろなスポーツをしたいねがい大きい。この学年は小学校最終段階として心理的・肉体的機能もいちおう最高の段階に達する時期であり、かなり計画的表現もできるようになる。そこでこの題材では児童一人一人が、未来の体育館を作るねがいをもち、試行錯誤しながらシニエル構造を知り、紙の可能性を知る事によって、自分のねがいを豊かに表現させたいとねがっている。

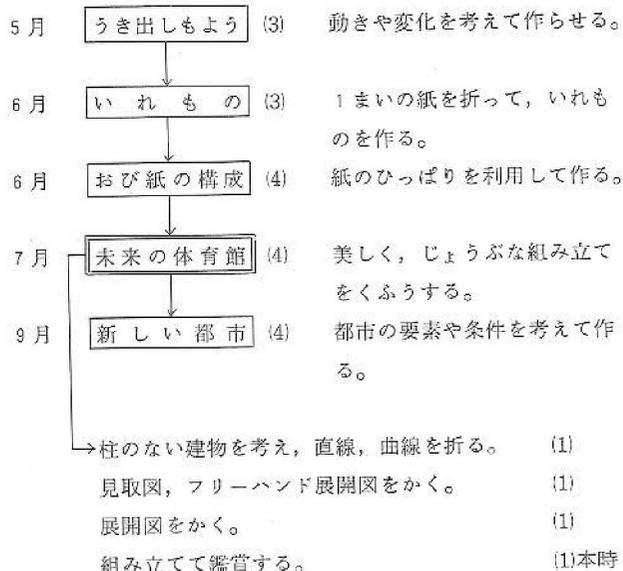
2 題材のめあて

- ・曲線、直線による変形を応用した体育館を考えさせ題材の強さや構造に関心を持つ。
- ・貝殻のようなものと、本題のねらう構造とのつながりに気づかせ、美しくじょうぶな組み立てをくふうする。
- ・ねがいを計画的に実践し紙の可能性をさぐる。

5 本時のながれ

ながれ	教師のはたらきかけ	予想される児童の活動	留意点
準備 構 想 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の準備を確認する。 ・本時の学習のめあてを確かめる ・ねがいにあった立体を作るための意欲を持たせる。 ・計画的に作業をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料、用具を用意し机上の整頓をする。 ・立体を作るための要領について話し合う。 ・自分のねがいを思いおこし、立体を作る意欲をもつ ・展開図より折り線を入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ○直線はめうちで定規をあててひく。 ○曲線はコンパス又は、鉛筆でかくような気持ちでひく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてをつかみ意欲をもたせる。 ・折り線が弱いと折りじわがつきやすいため強くひく。
修正完成	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい立体を組み立てさせる。 ○折る、まげる、まるめる、接着する等はくふうさせる。 ・ていねいに全体をよく見て仕上げさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・折る、まげる、まるめる、接着する。 ○用具は効果的に使う。 ・作品は一方だけから眺めないで、視点を変えて検討しながら作業をする。 ・組み立てたら台紙の上に乗せて接着する。 ・完成した児童は本時の学習について、反省をメモする 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙の張りをそこなわないようにせんたくばさみを使用させる。 ・個別指導では児童の気持ちを大切に、し、はげます。
鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・完成の喜びを味わい、お互の作品を鑑賞させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねがいがどう表現されたか、苦心した事や、くふうした事など、仕事の仕方から話し合う。後仕末をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・作ったお互のねがいを大切にす

紙を主とした題材の系統



4 本時のおさえ

- ・直線・曲線による立体の美しさを表現する。
- ・折る、まるめる、接着する等、技術的な思考を高め処理の仕方をくふうさせる。
- ・自分達のねがいがどのようにあらわせたか、鑑賞する。

きりぬきポスター

指導 沢田 透
児童 神居小学校 36名

1 題材について

子ども達は最高学年としての自覚を持ちながら、週番活動や生徒会活動にリーダー的立場で活躍している。このような中でいつもくり返しあげられる反省など、みんなに守ってほしいこと知ってほしいことが、たくさんあることに気がついていると思う。今これらの願いをポスターで表現させ校内に掲示させることは、子ども達の意識を一層もり上げるとともに、生活に生かす喜びや役割を知らせることができるものと考えている。

切りぬきによる表現は、平面的で単純化された構成となるので、描画的表現におちいりやすい子供達にとって適していると思われる。またはさみやカッターによる抵抗や画面にとらわれない構成は、子どもたちの発想を高め意欲的に活動でき、個々のアイデアを生み出すことができるものと考えている。

2 題材のめあて

- (1) 切りぬきによる文字や形の配列や配色をくふうし、美しいポスターを作らせる。
- (2) よく目立ち人の注意をひきつけ、意味内容がよくわかるおも

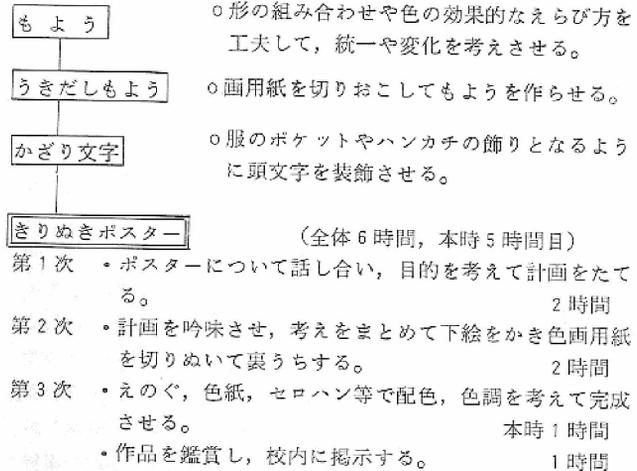
5 本時のながれ

分	節	与えるもの	表現活動の経路	ひきだすもの	おもな教師の発言・助言
7	条件設定	<ul style="list-style-type: none"> ・配色について話し合う。 ・よく目立つことや掲示する場所を考えに入れて配色することを知らせる。 ・色数は数ないほうがよいことを知らせる。 	よく目立つことと掲示する場所を考えに入れて、美しい色調になるよう配色することを知らせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・明るさの違いが大きいほどよく目立つ配色になることに気づく。 ・文字は、はっきりとよく目立った方がよいことに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備するものが全部そろっていますか。 ・ポスターの配色で考えなければならないことはどんなことですか。
8	構想	<ul style="list-style-type: none"> ・えのぐ・色紙・セロハン等の材料を効果的に使うことを知らせる。 ・作品に色紙を置きながら目立つ配色で、美しい色調になるよう考えさせる。 	自分の作品をどのように配色するか考え表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・色数が少ない方があっさりした配色になることを知らせる。 ・配色に使う材料を知り効果的に使うことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎条件 今日は、よく目立ち、掲示する場所も考えに入れて、美しい色調になるように配色してみましょう。 ・目立ってほしいところはどこかな。 ・色数は何色ぐらいがよいかな。 ・どのように配色するかまとまった人から作業をはじめましょう。
30	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・配色や形を吟味し、不十分なところを直させる。 	配色や形を吟味し、不十分なところを直し完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・配色や形のよさについて吟味してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎机間巡視 ・こちらの色の方がよく目立つね。 ・△君の文字はとてもよく目立つよ。 ・文字の色はもう少し明るくした方がよく目立つと思うよ。 ・もう少ししていねいにはらうね。 ・えのぐのぬりにむらがあるね。

しろい表わし方をくふうさせる。

- (3) 自分達の作ったポスターを校内に掲示させることにより生活に生かす喜びや活用的態度を育てる。

3 指導計画



4 本時のおさえ

- ・よく目立つ配色にさせる（とくに文字）
- ・掲示する場所を考えに入れさせる。
- ・色数が何色ぐらいがよいか考えさせる。
- ・えのぐ、色紙、セロハン等、それぞれの効果を考えて使用させる。





美しい飾り皿

指導 大西 勤
生徒 光陽中学校 42名

1 題材について

デザインはもちろん、絵画や彫塑の造形学習においても色彩のしめる割合は非常に大きく、その場にあった配色を効果的に生かせることは、表現を高める大きな手助けになると思う。特にデザイン学習で欠かすことのできない配色は、基礎的な能力として多くの練習を積み重ねることにより、感覚として身につけなければならないし、又、その能力を養う練習が練習のみに終始したのでは意味がなく、それらが子供の日常生活へ生かされれば、との願いから飾り皿を選んでみた。皿となる材料もともすれば見落しがちな身の回りにちょっと目を向けることにより立派に造形の素材となるものがあることを発見させる意味で、消耗品としてあつかわれている発ぼうスチロール製の皿を使う。

2 題材のめあて

- ・前時学習の配色練習を実さいに自分のデザインとして生かす

5 本時のながれ

	指導のねらい	学習活動	指導の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容を想起させる ・本時の学習内容、手順をきちんとおさえさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容について話しあう ・本時の作業順序をきちんととらえる 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時まででどんな配色練習をしたかまとめる。 ・6人ずつのグループを作り色調が片寄らないようにグループ内で割当てる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・前時学習の配色練習が生かされるように、また発ぼうスチロールの白い材質にマッチするよう配色を工夫し1枚目の皿を制作させる。 ・寒色、暖色、補色、めだつ、めだたない同系色の配色から発展し、たのしい、さびしい、重い、軽い、はで、じみの色の感情について考えさせる。 ・色の感情を生かして2枚目の皿を制作させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時学習の配色練習を生かし1枚目の皿を制作する。 ・色紙を選ぶ ・色紙を切り裏面よりのりづけする ・1枚目の作品から色の感情について話しあう ・色の感情を考えた配色で2枚目の皿を制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色紙は前時学習の配色練習から寒色、暖色、補色、同系色、めだつ、めだたない配色から選び美しい配色になるよう計画的にたてさせる。 ・計画的にかつ、ていねいに作業を進めさせる(配色、色紙の切り方、のりづけ) ・できた作品はリングでつなぎあわせていき他の作品をみる。 ・1枚目の作品の配色と指示した色の感情を結びつけて考えさせる。 ・1枚目と同様な制作手順で作業を進めさせる。 ・配色は前作品の配色にとらわれすぎないように
整理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品をつなぎあわせたまま教室の壁飾りにすることを予告する。

もに飾るデザインに対して関心を深める。

- ・身の回りで見られる廃品の材料から造形の可能性を見出し、それを自分でデザインする喜びを味わう。

3 指導計画



4 本時のおさえ

- ・前時学習の寒色、暖色、補色、同系色、めだつ、めだたない配色を生かし飾り皿を制作させる。
- ・色彩から感情を読みとり、それを配色の上に生かしながら飾り皿を制作する。

友 だ ち

指導 鳥 本 捷 夫
生徒 神居中学校 39名

- 自分の感じたものを素直に表現させる。
- 友だちの顔の良さ美しさを感じとらせる。

3 指 導 計 画



23

1 題材について

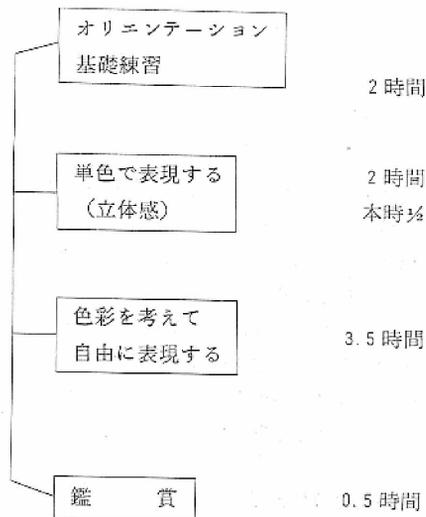
中学生の年令の特徴として、客観的に対象をとらえようとする傾向が強くなっている段階では、観察力と表現力の不均衡を感じる。今まで気づかなかった角度から物を見たり表現方法を工夫することにより、その不均衡を少しでもとり除き生徒の表現をより豊かなものに高めたい。

ここでは平凡ではあるが最も身近な対象である友人をもう一度自分の目で見つめ、そこから感じとったものを画面に表現させるのであるが、特に物に対する観察力、基礎的な表現力を身につけさせ、更にこの学習をとおして友だちの良さ美しさを感じとらせたい。

2 題材のめあて

- 各部のつりあい、形の変化を観察し色彩、構図を考えて表現させる。

5 本時のながれ



4 本時のおさえ

明暗や形の変化を観察して単色で表現させ、観察力、表現力を高めたい。

指 導 の ね ら い	学 習 活 動	指 導 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> • 本時の学習内容と制作方法を確認させる。 • 顔の各部分の面がどのようになっているか見つけさせる。 • 単色を使って、効果的に表現させる。 • 本時のめあてについて確認をし次には、細部の仕上げをすることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 本時の制作について説明を聞く。 • 各自モデルを確認、描くむきを決める。 • アルミ箔を使って顔の面をおさえる。 • 色を決める。 • 制作する。 <ul style="list-style-type: none"> • 画面えの入れ方を考える。 • 下がきなして鼻の部分から描き始める。 • 明るい部分から描く。 • 本時の進みぐあいを見、次時の足がかりとする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分のモデルの感じをつかませる。 • 顔の外形の正確さだけにとらわれず、豊かな感じを表現させる。 • 部分的にアルミ箔を使って確認させる。 • 表現を工夫し、友だちの感じをつかまえているか。



黒い紙との対話 (陰刻による簡易多色版画)

指導 築山 尚明

生徒 北都中学校 46名

1 題材について

今までに数多くの版画を作り、作品を観てそれぞれの特性等も幾分か理解されて来た。多色刷り版画は技術的にも高度であるが生徒には興味深いものである。身近なものの中から今までとは違った版と、黒い紙との対話により、その興味を幾分満足させながら長時間の造形過程を意欲的に取り組ませ版画の興味を一層深めたいと思う。線彫りと言う最も基礎的な彫りと輪かく線による色の配置・スケッチを基に構想を練る等の基礎的能力を着実に身に付けさせ、意図が的確に表現出来るようになる事によって、生徒の造形能力は高められてゆくと考えている。

2 題材のめあて

- 版画の表現形式と技法や効果を理解させ、版画の興味を深めさせる。
- 技術的に抵抗の少ない簡易多色版画を経験させ、生徒の興味を喚起させ、意欲をもち上げ計画的に仕事をする態度を養う。

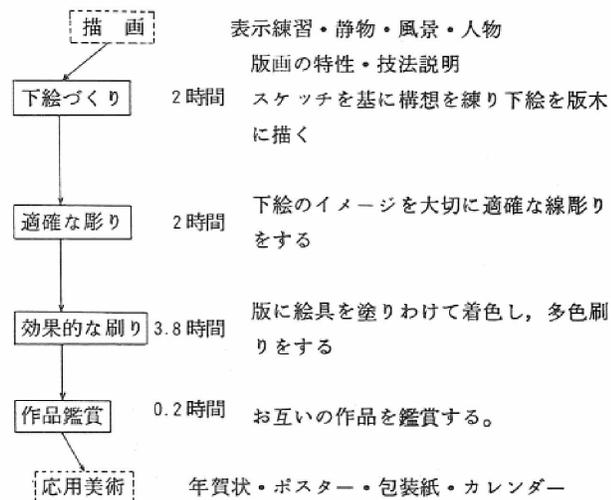
5 本時のながれ

指導のねらい	学習活動	指導の要点
(導入)		
• 本時の内容・手順を確認する	確認	
(展開)		
• 効果的な刷りをさせる	刷り	
• 部分的に不適当なところを発見させ修正させる	検討 修正	
	完成	
	展示	
	鑑賞	
	• 前時の学習の結果について話し合う	• 前時の反省点を気付かせる 絵の具のつけ方 パレンのこすり方
	• 本時の内容、手順を確認する	
	• 前時に引き続いて着色し刷る	• イメージに合った色調を考えさせる
	• 作品を検討し修正する点を見出す	• 地色、重色、配色の効果、線の構成 全体と部分の調和を更に検討させる
	• 修正する	
	• できた作品を台紙にはり展示する	• 台紙のはり方を知らせる
	• 作品を鑑賞する	• イメージが表わされたかを鑑賞させる
	• 工夫したところ等を発表し、ねらいが活かされたかを話し合う	• 重色や地色を生かす効果に気付かせる
		• 生活への応用に気付かせる
		• 計画的に作業が進められたか反省させる

次時予告

- 描画と異った美しさを発見させ、表現を工夫して創造的でありました作品をつくらせる。

3 指導計画



4 本時のおさえ

- 黒い紙を生かした多色刷り版画の美しさを知り、効果的な表現を工夫し、いきいきした作品をつくらせたい。
- 最初のイメージを持たせ、計画性を持って作業を進める態度を身につけさせたい。

動きのある人物

指導 重山 忠
生徒 永山中学校 38名

- ・適切な心棒づくりをさせる
- ・各部の動きを考えながら全体の動きを表現する
- ・石こうのとかし方を理解させる
- ・空間の美しさを感覚的にとらえさせる

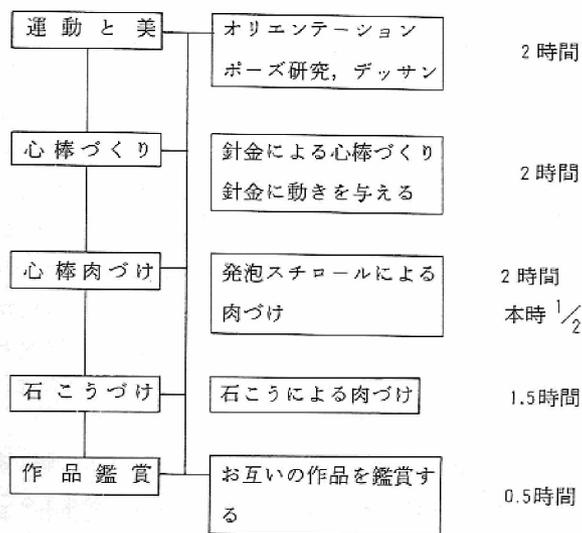


1 題材について

日常生活の中で、生徒は動きのあるものを見たり自から経験したりしており、中学生の段階から考えても多くの者はスポーツ等に力強く、美しいフォームを見出し、感動した経験もっている。そこで彼らの生活の中で、彼ら自身が経験しているものの中から題材を取りあげることにより、生徒の興味と関心を高め、それを造形的な表現活動へと導きたい。

彫塑学習においては、量感、動勢、バランス等、表現要素として欠くことのできないものであるが、この学習では動きのある人物の中で特にプロポーションや面の流れ、つながりによる動きをつかませ、さらに面として表現しやすい素材を与えることにより、生徒のもっているイメージがより豊かな表現へと高まるものと考えこの題材を設定した。

3 指導計画



2 題材のめあて

- ・人物全体の動きをつかむ

4 本時のおさえ

からだ全体の動きをおさえながら、各部の動き面の方向をつかみ、つながりに合わせて発泡スチロールをつけさせ、大きなかたまりと、面の流れによる動きを表現させる。

5 本時のながれ

	指導のねらい	学習活動	指導の留意点
導入	・本時の学習内容と作業手順を確かめさせる	・前時の学習をふりかえり話し合い、今日の学習について考える。	・心棒が台にしっかりとついているかどうかを確認する。
展開	・全体の動きをポーズを通して確かめさせる。 ・胸、背中、腰、足の各部が全体の動きの中でどのような向きになっているか、そしてそれがどのようなつながりになっているかを見つけさせる。	・お互いにモデルになりポーズをもう一度見直して心棒を修正する。 ・胸と背中の間隔を考えながら大まかな肉づけをする。 ・胴と腰の間隔を考えながら大まかな肉づけをする。 ・つまさきの方向に注意して足の肉づけをする。	・色々な方向からモデルを見る。 ・胸と背中の大きさのちがいに気づかせる。 ・各部の肉づけをしながらも常に全体の動きを忘れないよう。 ・大腿部の形に注意する。
終結	・次時にはさらに細部の肉づけをすることを知らせる。	・本時の作業の進み具合をたしかめ、次時のあしかがりとする。	・作品の保存に注意する。



カレーの市民

指導 大久保 正義
生徒 附属中学校 42名

1 題材について

中学生も上学年になるにしたがって、物事を知識的に把握することが多くなり、その結果深く味わうことなく「あの本は読んだことがある。」「これは〇〇の描いた絵だ。」といった単なる物知りの生徒に終わってしまいがちである。また、現代生活の中で、テレビ、映画など他から送りこまれて来るたくさんの情報をじっくり見つめることなく表面的にとらえ、たくさん知っていることのみを誇りしたり、表面だけのカッコよさを追う結果にもなりかねない

ここで現代彫刻の基を築いたといえるオーギュスト・ロダンの「カレーの市民」を深く鑑賞し、生徒が興味をもつであろうドラマチックな彫刻に触れさせながら、作者の考え方を知るとともに高い芸術性を味わわせたい。

作品の中から精神的価値を発見する活動をとおして、芸術に対する関心を高め、次期の製作活動の勇氣に（意欲に）発展することを期待してこの題材を進めて行きたい。

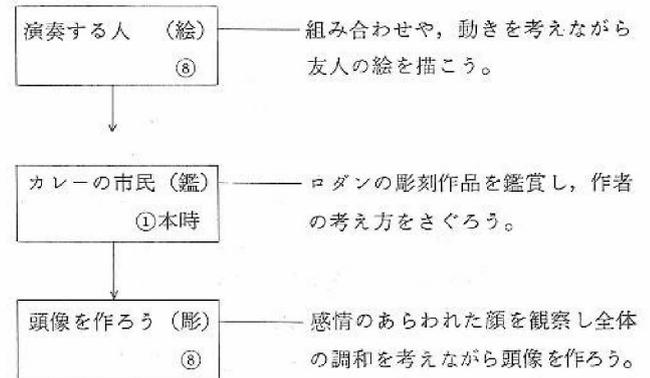
5 本時のながれ

教師の活動	生徒の活動	留意点・その他
<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習について想起させる。 地域の彫刻や最近の話題から 彫刻に対する関心を高める。 「カレーの市民」全体を見せる。 「コレオー＝将軍騎馬像」を見せる。 比較させる。 作者、作品者を紹介する。 部分（個々の人物）を見せる。 正面、横の像を比較させる。 なぜこのような英雄像を作ったかを考えさせる。 テープを聞かせる。 ロダンの他の作品を見せる。 次時予告 	<ul style="list-style-type: none"> 旭川にある彫刻作品について話し合う。 最初の彫刻の話題を見つけて話し合う。 全体を見て感想を発表する。連想する語句を見つける。 騎馬像を見て感想を発表する。連想する語句を見つける。 ふたつの作品を見、ちがいを見つけ出す。 それぞれの人物を見、表情のちがい、ポーズのちがい、個性のちがいについて話し合う。 見る方向によってどう変わるかを話し合う。 各自の考えた意見を発表し、話し合う。 自分の考えと他の人の考えを対比させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年の写生会から中原悌二郎の作品 新聞記事から風雪の群像の話題 スライドによる。 楽しい雰囲気でありたい。 略歴をプリントしておく。 動勢に気づかせたい。 「芸術に生きぬく物語」から 「ロダンのことば」から

2 題材のめあて

- ロダンの彫刻作品の鑑賞を通して、作者の個性や、考え方を探り、名作や遺作に対する理解を深める。
- 彫刻の美しさを深く味わい楽しむ態度を養うとともに創造への意欲を高める。

3 指導計画



4 本時のおさえ

- ロダンの作品をいろいろの方向から見、作者の考え方をさぐる
- とともに高い芸術性を味わわせたい。
- 彫刻の美しさにふれながら、内面的な美しさに気づき、次期の製作、鑑賞活動の糧としたい。

ポスター——我々の学校祭のために

指導 宮本俊雄
生徒 旭川北都商業高等学校 17名

1. 題材について

グラフィック・デザイン、イラストレーションと言う言葉は今や言葉として非常に身近なものであり、生徒間の興味もかなりの比重を占めている反面、視覚的に快感のあるものが良いデザインと言う無意識的判断が入り込んでいる。

そこで身近な自分達の学校祭のためのポスター製作を通してグラフィック・デザインの正しい意味、あるべき方向を感じ取らせると共に自分達の学校祭に何らかの形で参加する喜びを味わわせたい。

2. 題材のめあて

ポスターの評価には視覚的な快さと共に内容の濃さ、独自性がかみ合わされた上で判断されなければならない。特に製作する側の者にとっては内容の追求と独創性がまず最初に考えなければならないことを理解させると共に製作の手順、色彩、レタリング、レイアウトの感覚を体得させ、関心を持たせたい。

5. 本時のながれ

3. 指導計画

ポスターについて 1時間

- ポスターの歴史、種類、機能、使命、条件、製作手順をスライド、作品例を用いて説明

アイディアスケッチ 1時間

- テーマにそってイラスト、幾何学パターン、文学による構成等方針を決めてから取りかかる。
- 大体的方針が決ったら仕上がりに効果を考え、色彩、技法を決め簡単に置いてみる。

ケント紙にスケッチ 1.5時間

- B2判のケント紙に決ったものをスケッチ

トレス 1.5時間

- バックの塗りむらをさけるために先にバックを求める様に塗る。そのためにトレシング・ペーパーでトレスし、塗りが乾いてから再びトレスする。

着色 3時間 (本時 $\frac{3}{3}$)

- トレスした跡に着色

レタリング 2時間

- 文字を除いた部分が全て完成してからレタリングをトレスし着色する。

4. 本時のおさえ

- 効果ある技法をみつけさせる。
- 効果ある配色を工夫させる。
- ていねいな製作を心がけさせる。



	指導のねらい	学習活動	指導の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> 本時の内容手順の確認をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの進行を確かめ、本時における手順を確認する。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> テーマに沿った画面を作らせる。 快い配色、効果的な技法を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 彩色：各自の計画に基づき、用意した用具で着色する。 	<ul style="list-style-type: none"> 配色の効果を十分に検討させる。 効果的な技法、材料を使わせる。 ていねいな製作を心がけさせる。
整理	<ul style="list-style-type: none"> 本時の進行を確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時までの製作と完成予想効果を照らし合わせてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 次週予告



● 大会役員一覧
大運營委員會

名誉大会長	旭川市教育委員会教育長	高柳 寿賀男	大会運營委員長 大副委員長 大運營委員	旭川市立正和小学校	梅沢 勇
大会長	北海道造形教育連盟委員長	和田 芳郎		上川教育局指導課長	寺田 浩
副大会長	旭川市教育研究会運營委員長	戸原 武雄		旭川市教育委員会学校教育課長	谷口 忠由
	北海道造形教育連盟副委員長	早弓 弘行		上川教育局指導主事	奈良 孝秋
	"	小田山 武		旭川市教育委員会指導主事	山本 伝
	"	古川 良吉		"	庭瀬 利男
顧問	北海道教育委員会指導部長	阿部 悟郎		旭川市立上雨紛小学校	円山 善勝
	北海道教育厅上川教育局長	佐賀 庄蔵		" 啓明小学校	佐藤 一吉
	旭川市教育委員会教育委員長	後藤 憲太郎		" 大町小学校	深瀬 智且
	" 教育委員	田下 福造		" 永山東小学校	岩間 昇
	"	安達 正作		" 常盤中学校	西村 隆
	"	石崎 忠夫		" 北都中学校	小林 稲彦
	旭川市小学校長会会長	工藤 甲逸		" 雨紛中学校	森田 喜昇
	旭川市中学校長会会長	仁田原 寿吉		教育大学附属旭川小学校	柳原 寿夫
	旭川市立神楽幼稚園長	大河内 光秋	大事務局長	旭川市立北星中学校	小田 栄作
	旭川私立幼稚園連合会会長	浅井 晴雄	実行委員長	旭川市立北星中学校	吉田 一雄
	北海道教育大学旭川分校	根守 悦夫	実副委員長	旭川市立正和小学校	渡辺 正勝
	"	上条 雄也	"	" 北星中学校	大河内 英明
	"	板津 邦夫	研究部長	旭川市立大成小学校	古屋 栄隆
	" 札幌分校	畠山 三代喜	副部長	" 常盤中学校	中西 清治
	" 函館分校	宮林 繁夫	"	教育大学附属旭川小学校	飯塚 礼二
	" 釧路分校	望月 正男	(領域別責任者)		
	北海道光塩学園女子短期大学	朝倉 力男	幼稚園部	旭川市立神楽幼稚園	平山 -エイ子
	旭川市教育研究会図工・美術部前部長		小学校絵画部	" 東町小学校	脇神 玲子
	旭川市立朝日小学校	泉 秀雄	" 版画部	" 春光小学校	川島 信也
	" 高台小学校	蓑口 作蔵	" 彫塑部	教育大学附属旭川小学校	飯塚 礼二
	" 朝日小学校	工藤 正	" デザイン部	旭川市立正和小学校	渡辺 正勝
	中富良野町立宇文小学校	今野 正治	" 工作部	" 北鎮小学校	松藤 浄治
	旭川市立北星中学校	高野 克郎	中学校絵画部	" 常盤小学校	中西 清治

中学校版画部
 " 彫塑部
 " デザイン部
 " 鑑賞部
 高等学校部
 (記録)

旭川市立永山中学校
 " 東光中学校
 " 光陽中学校
 " 聖園中学校
 旭川大学附属旭川高校
 旭川藤幼稚園
 " "
 " "
 旭川市立向陵小学校
 " 神居小学校
 " 新富小学校
 " "
 " 江丹別小学校
 " 日新小学校
 " 青雲小学校
 " 永山小学校
 " 永山西小学校
 " 新町小学校
 " 東町小学校
 " 千代田小学校
 " 神居古潭小学校
 " 神居小学校
 " 第七小学校
 " 神楽小学校
 " "
 " 聖和小学校
 " 豊岡小学校
 " 北鎮小学校

氏 本 利 光
 小 杉 信 雄
 鈴 木 俊 昭
 杉 山 徹
 佐 藤 範 夫
 辻 憲 子
 塚 田 恵 子
 中 島 佐 苗
 島 敏 彦
 阿 部 敏 子
 吉 本 博 二
 沢 田 武 子
 山 晋
 広 瀬 美 智 子
 永 倉 サツ子
 千 葉 哲 男
 山 本 久 栄
 工 藤 雄 二
 今 関 三 和 子
 山 本 隆 夫
 四十物 明 紀
 相 内 弘 行
 永 沢 薫
 小 笠 原 司
 根 本 正 昭
 地 徳 明
 小 笠 原 信 志
 高 橋 貞 一

高等学校部
 (記録)

旭川市立北鎮小学校
 " 神楽岡小学校
 " "
 " 春光小学校
 " 六合中学校
 旭川養護学校
 旭川ろう学校
 旭川市立旭川中学校
 " 北星中学校
 " "
 旭川大学付属旭川高校女子部
 旭川市立神居小学校
 " 近文小学校
 " 神居小学校
 旭川市立東町小学校
 " 北都中学校
 " 東光中学校
 旭川大学付属旭川高校
 旭川市立神楽幼稚園
 " 朝日小学校
 旭川市立北鎮小学校
 " "
 " "
 旭川市立光陽中学校
 " "
 教育大学付属旭川中学校
 旭川市立北星中学校
 " 春光小学校
 " 北星中学校

永 沢 千 美
 木 村 典 義
 中 村 幹 也
 中 田 加 代 子
 島 本 淳 子
 中 田 忠 義
 山 野 照 人
 関 秋 宏
 真 岸 勉
 朴 谷 邦 正
 伊 林 朋 子
 小 倉 孝
 宮 下 林
 島 本 捷 夫
 脇 神 玲 子
 築 山 尚 明
 小 杉 信 雄
 佐 藤 範 夫
 平 山 エイ子
 川 口 幸 和
 松 藤 浄 治
 角 邦 雄
 永 沢 千 美
 鈴 木 俊 昭
 大 西 勳
 大 久 保 正 義
 山 田 武
 川 島 信 也
 渡 辺 範 英

事業部 長
 副 部 長
 " "
 渉外部 長
 副 部 長
 " "
 会計部 長
 副 部 長
 " "
 庶務部 長
 副 部 長
 " "
 編集・記録部 長
 副 部 長
 " "
 会場部 長
 副 部 長
 " "

● 大会役員一覧



北海事務機印刷工業納